

平成 18 年度海岸工学委員会（第 2 回委員会）議事録（案）

日 時：平成 18 年 11 月 15 日（水）18:30～20:00

場 所：ロイヤルガーデンホテル 2F シャローネ（徳島県阿南市）

参加者：喜岡委員長、佐藤幹事長

青木、荒木、池谷、上野(代理：織田)、大平、大山、岡安、岸田(代理：本田)、黒木、五明、柴山、島田、鈴木、清野、武若、丹治、畑田、半沢、古川(代理：中山)、前野、間瀬、松見(代理：太田)、水谷、山本、横木、渡部 以上委員
泉宮、木村、栗山、後藤、小林、榊山、重松、清水(代理：関本)、高木、中野、中山、灘岡、橋本、福濱、藤原、村上 以上委員兼幹事
熊谷（事務局） ※敬称略

1. 前回議事録の確認（佐藤幹事長，資料 No. 1-1, 1-2）

- ・前回委員会および幹事会の議事録が提示され，確認された。

No. 1-1 平成 18 年度海岸工学委員会（第 1 回委員会）議事録（案）

No. 1-2 平成 18 年度海岸工学委員会 第 1 回幹事会 議事録（案）

2. 報告事項

- ・喜岡委員長より，昨年度の調査研究委員会の活動評価結果について，委員会活動への関係者数，財政面，それら以外の活動の 3 項目全てで A 評価であったが，A ランク評価の委員会の数が前年度よりも増えたため，予算については一割減となる旨の報告がされた。

3. 海岸工学論文集（第 53 巻）について（佐藤幹事長，資料 No.2-1）

- ・本年度は，論文集を電子受付，電子投稿とし，配布は紙媒体とした。
- ・投稿論文数は 420 編であり，うち 1 編が英語，1 編が辞退のため，418 編の第一審査を行った。第一段審査の採択論文数は 294 編である。第二段審査において，2 編が辞退，2 編は査読途中で辞退，2 編が D 判定となり，結果として 288 編が論文集に掲載された。
- ・編集小委員会は，2 年ごとに担当者を変更し，ノウハウが持続的に引き継がれるようにしたい。
- ・価格は，来年度以降も今年度と同程度の 5,000 円程度を維持したい。
- ・業界案内は，論文集価格の維持に基盤的な経費となっている。

4. 海岸工学論文賞について（間瀬委員，資料 No.3）

- ・本年度の海岸工学論文賞候補の選考方法について，査読結果合計点の上位 5 編が選定

され、編集小委員会でそのうちの3編を幹事に推薦し、幹事で承認された旨が説明された。

- ・上記、海岸工学論文賞候補3編が提示され、承認された。
- ・来年度の選考方法について、幹事の中から選考委員5名を指名し、査読時の評価点数上位の論文に対して査読結果を知らせないで選考してもらう方法が提案され、承認された。
- ・上記方法について、幹事の中からと限定すると、選考委員の該当者が不足する可能性があるとの意見があり、選考委員の指名法については柔軟に対応するものとした。
- ・論文賞の受賞式は講演会の閉会式で行い、その際、受賞者にはCEJへの投稿を依頼する旨、報告があった。

5. 第53回海岸工学講演会について（中野委員，資料 No.4）

- ・第一日目終了時点で確認された入場者数は、472名であり、昨年度並であることが報告された。

6. 海岸工学論文集第54巻と第54回海岸工学講演会について

（1）海岸工学論文集第54巻について（資料 No.5-1, 5-2, 6）

- ・重松委員より、土木学会の論文集の基準を満たすため、来年度から英語のタイトル、著者、アブストラクトを加え、日本語のアブストラクトを削除する旨の説明があり、その雛型が提示され、承認された。
- ・間瀬委員より、第1段審査時の著者を本論文で変更する場合の方法が提案され、承認された。
- ・横木委員より、来年度の論文集について、資料 No. 5-1 に従い、上記以外の部分の説明がされた。査読時の対応として、新旧修正対応表を添付するようにした方が良いとの意見が出され、今後の検討事項とした。
- ・佐藤幹事長より、海岸工学論文集の電子化について、学会全体の動きも見ながら電子ジャーナル化が実現するまでは、紙媒体で配布する方針であることの確認がされた。
- ・佐藤幹事長より、著者負担金についての説明があった。著者負担金については、講演会への参加費が無料であることや、論文集の価格と比較しても高いと認識している。論文集価格を多少上げてでも負担金を下げたいが、中途半端に下げるのではなく、出来れば半額程度まで下げられる目処がついた場合に下げたい。土木学会誌の著者負担金の案内では、”30,000円(予定)”として検討を継続する。

（2）第54回海岸工学講演会について（村上委員，資料 No.5-3）

- ・第54回海岸工学講演会の準備状況が、資料に従い説明された。
- ・宮崎コンベンションビューロからの補助金が比較的大きく、予算的にはそれほど厳しくない。

- ・ゴルフやプロ野球のキャンプと重なるため、宿泊施設の確保が難しい可能性があり、旅行代理店として近畿日本ツーリストに依頼をしたので、早めに予約をするようにして欲しい。

7. 第 55 回海岸工学講演会について

- ・佐藤幹事長より第 55 回開催地の予定地を北陸で予定しており、候補として金沢を検討中であることが報告され、承認された。

8. Coastal Engineering Journal について（柴山委員，資料 No.7）

- ・本年の現在までの国内投稿数が 6 編であり、今後積極的に投稿して欲しい。
- ・国内の購読者数が 80 以上にならないと、委員会の負担金が軽減されないため、購読者拡大に向けて案内を配布中である。購読してくれそうな人（組織）に心当たりがあれば、柴山委員に伝える。
- ・年明けから、編集方法の電子化、PDF での投稿に変更する予定であり、現在、編集小委員会で検討中である。

9. 小委員会・WG の活動状況について

（1）沿岸域研究連携推進小委員会（青木委員，資料 No.8-2）

- ・第 1 回小委員会を水工学委員会と共同開催し、ジョイントシンポ等の企画について打ち合わせを実施した。
- ・沿岸環境関連学会連絡協議会に出席し、ジョイントシンポの提案をした。ジョイントシンポは、第 1 回として”英虞湾の環境再生プロジェクト”のテーマで 1/13 に実施予定である。

（2）広報小委員会（岡安委員）

- ・重点研究課題の研究状況について説明された。現在、市民向けアンケートを準備中であり、第一段階として、今回の海岸工学講演会で研究者に向けて、アンケートを実施中である。また、同様のアンケートを津波シンポにおいて市民向けに行う予定である。なお、本アンケートを海岸工学委員会の名前で実施中である旨が報告され、了承された。
- ・論文集の閲覧オンライン化については、土木学会図書館が全ての論文集のオンライン化を準備中であるため、小委員会としては推移を見守りたい旨の報告があり、承認された。
- ・論文集のデータベースについて、現在ボランティアで非公式に作成されているため、これを小委員会として正式に業務として依頼する旨の提案があり、承認された。

10. 第 42 回水工学に関する夏期研修会について（小林委員，資料 No.9）

- ・第 42 回の夏期研修会の内容が、資料に従い報告された。

1 1. 第 43 回水工学に関する夏期研修会について（橋本委員）

- 来年度の夏期研修会は九州大学で行う。
- テーマは、ここ数年で様々な数値モデルが新たに提案されてきているため、それらを総括した内容が提供できるテーマを検討中である。
- テキストについては、引き続き紙媒体とする。今年度、水工学委員会から紙媒体と CD の両者での配布が提案されたが、予算的にも難しかった。

1 2. その他

- 6 月 9 日に、カトリーナ高潮災害の調査結果についてのフリーディスカッションを実施した。
- APAC2007 が、南京で 2007 年 9/21～24 に開催予定であり、アブストラクトの締め切りは 12/15 となっている。是非、多くの方に投稿して欲しい。
- APAC2009 はオーストラリアを予定している。
- 2009 Coastal Dynamics が日本（東京）で、2009 年 9/7～11 に開催予定であり、第 1 回の LOC を既に開催した。
- 大蔵海岸事故について、神戸地検からの問い合わせに委員会として対応した。
- 土木学会の国際貢献賞の候補者推薦を依頼されているので、該当者がいれば幹事長まで連絡する。